

研究課題	学校発！地域と学校のニュースを融合
副題	～学校と地域のニュース番組を高校生の視点で制作。地域活性化に関わり、地域社会に参画する態度を育む～
キーワード	地域活性化、情報活用能力、地域貢献、高大連携、産学連携、官学連携
学校名	三重県立名張高等学校
所在地	〒518-0711 三重県名張市東町 2067-2
ホームページ アドレス	<a href="http://www.mie-c.ed.jp/hnabar/">http://www.mie-c.ed.jp/hnabar/</a>

## 1. 研究の背景

2002(平成14)年に学科改編で生まれた総合学科は6つの系列(人文、科学、商業、スポーツ、生活デザイン、芸術メディア)があり、全校生徒630人が日々学びを深めている。このうち、芸術メディア系列において、特色ある学びができるよう、総合学科実習棟が建設され、テレビ番組が収録できる「放送スタジオ実習室」など充実した施設が設けられた。

実習用の機器として、収録用カメラや編集機があるが、いずれもアナログ放送向けのものであり、デジタル時代に対応しておらず制作活動が十分に行えない。また、毎年校内で予算要望を出しているが、機器が高額であるため予算がつかず更新できていないのが現状である。

芸術メディア系列(放送)は、学校設定科目として「放送基礎技術実習」や「放送技術演習」を展開しており、この分野を本業としている外部人材を特別非常勤講師として招聘している。

近年、放送業界を目指して入学する生徒が増加し、放送に関わる学校設定科目を履修し、また部活動として放送部に所属している。芸術メディア系列(放送)と連携し、校内のラジオニュース番組の制作や地元ラジオ局への出演、地域イベントの司会進行等の運営に関わり、地域との連携を重視しつつ、活動の幅が広がってきている。

## 2. 研究の目的

本実践は、放送部がこれまでの活動で、地域のイベント等に積極的に参加し、地域と連携する中で、高校生ができる地域活性化の一助となるような取り組みを行うものである。PDCAサイクルを活用し、地域と学校のニュースを高校生の視点で取材、テレビ番組として制作し、それをさまざまな場所で放映することによって、生徒が地域社会に参画する態度を育むことを目指す。

一連の取り組みにおいて、生徒に育みたい力を3つ設定した。

- ① 情報活用能力(取材を通してどの情報をどう伝えるか)
- ② 地域活性化に関わる力(地域のにぎわい創出に主体的に関わろうとする)
- ③ 課題発見能力(地域に関わることで、地域が抱える課題に気づく)

### 3. 研究の経過

学校と地域のニュース番組を高校生の視点で制作。地域活性化に関わり、地域の活動に参画する態度を育む。芸術メディア系列（放送）の授業と放送部の活動で連携し、取材活動からVTR制作、スタジオ収録を経て、番組を公開する（図1）。校内に公開用ディスプレイを設置し、繰り返し放映する。また、校外では公共施設や商業施設での放映を行う。番組は毎月更新する。

制作にあたっては、年度前半で先行事例の研究や企画ミーティング、制作準備などを行い、年度後半に「制作→取材→編集→放映」のPDCAサイクルを実践した（表1および図2）。

地域とのかかわり方について

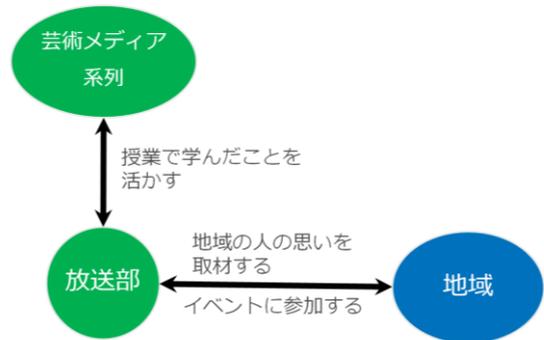


図1 地域とのかかわり方

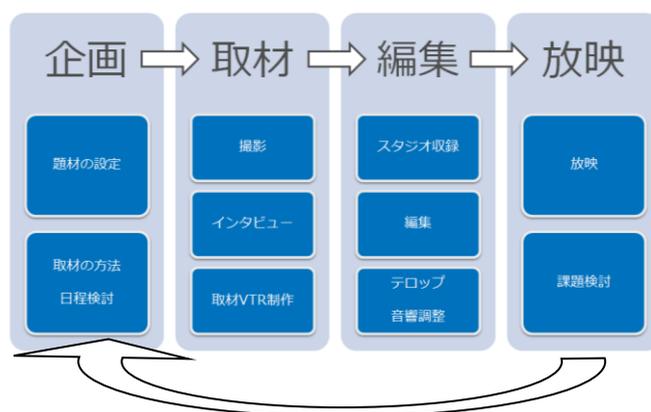
表1 研究の経過

月	生徒の活動	その他
4	先行事例の研究と番組企画検討	
5	技術研修	
6	番組構成の検討	
7	先行事例校見学 番組構成の決定	
8	番組構成に基づくリハーサル 《第1回》企画	
9	技術研修(大阪芸術大学テレビ中継車講習) 《第1回》取材→編集	正面玄関に放映用ディスプレイ設置
10	《第1回》放映(10月放映) 《第2回》企画→取材→編集	
11	《第2回》放映(11月放映) 《第3回》企画→取材→編集	名張市役所に放映用ディスプレイ設置
12	《第3回》放映(12月放映) 《第4回》企画→取材→編集	イオン名張店に放映用ディスプレイ設置
1	《第4回》放映(1月放映) 《第5回》企画→取材→編集→放映(2月) 《第6回》企画	三重テレビ放送で取り組み報告 梅が丘市民センターなど3カ所に 放映用ディスプレイ設置
2	《第6回》取材→編集→放映(3月放映) 《第7回》企画	NHK 総合テレビで取り組みを生中継
3	《第7回》取材→編集→放映(4月放映)	伊賀上野ケーブルテレビで番組を放送

#### 4. 代表的な実践

2018年9月から毎月約10分間の番組を制作している。本校の話題2本、地域の話2本のあわせて4本を基本とし、それぞれの話題は事前に取材、VTR編集を行ったうえで、各話題の導入やまとめ等番組の骨格は、キャスターが出演してアナウンスするスタジオ収録で構築する。

取り上げる地域の話題は、地域活性化につながる、地域住民参加型のイベントや地域の新しい取り組み、地域の伝統行事(伝統芸能)等の中から選択する。また、本校の話題は、総合学科6系列での特徴的な取り組みを中心に、地域連携、産学連携、高大連携に関わる取り組みの中から選択する。



具体的な制作の手順は次のとおりである。

放映月の前月に、番組企画を行う。番組を統括するプロデューサー役の生徒を中心に検討し、放送する話題を決定する。話題ごとに、2人1組の取材クルーを割り当て、取材や編集、ナレーション台本作成等を担う。取材クルーは、撮影担当と取材・インタビュー担当に分かれる。(図3)

取材終了後は、内容をもとに、ナレーション台本の作成と映像の編集作業を取材クルーが分担して行う。1分30秒から2分程度のVTRにまとめて、プロデューサー役の生徒に渡す。

各話題のVTRがまとまる前後で、スタジオ収録についてプロデューサー役の生徒を中心として企画する。スタジオ収録の場所、日時、キャスター役の生徒の台本等多岐にわたる。当初は、放送スタジオ実習室で、収録セットを制作して収録することを想定したが、あえて収録場所を決めずに、生徒が校内の収録に適した場所を考える方式とした。

スタジオ収録は、6人で行う(図4)。プロデューサー役の生徒が統括し、他にカメラ担当2人、キャスター役2人、AD役1人の合計6人で行う。カメラは取材用の4K対応業務用ビデオカメラ2台を使用する。スタジオ収録の所要時間は、設営や片付けを含めて2時間である。各話題のVTRを全員で事前に視聴し、話題の内容を理解したうえで収録に臨む。

収録後は、編集担当がスタジオ収録部分と各話題のVTRをつなげ、テロップを入れて完成する。編集担当の作業は、平日2時間の活動で5日間程度かかり、その後、制作に関わった全ての生徒が完成した番組を鑑賞し、個々の担当部分(ナレーションや映像編集等)のチェックを行う。



図3 地域イベントでの取材の様子



図4 スタジオ収録の様子

制作した番組は、本校正面玄関に設置した大型ディスプレイにより、くり返し放映する。設置場所は、来校者の目に入りやすい位置であり、また通路に面しているため、本校生徒も立ち止まって視聴している。(図5)

開始当初は、番組告知と本校総合学科の紹介を放映し、ディスプレイの所在を本校職員と生徒に周知した。

放映開始と前後して、各々がふりかえる時間を設ける。「ふりかえりシート」を用いて、その回の制作にあたっての役割や改善、次への課題を書く。これを部内で共有して次回の番組制作に活かす、PDCA サイクルを意識して活動する。



図5 正面玄関に設置したディスプレイ

## 5. 研究の成果

番組の制作に主に関わった生徒は8人である。PDCA サイクルに則り、役割はそれぞれに明確に分担されている。基本的に複数の工程に関わる。各回の放映後に生徒が記入した「ふりかえりシート」をもとに成果をまとめる。

全体を通して、生徒の変化は次のようなものがあげられる。

- 各題材のVTRでどのような編集を行うかを考えながら、撮影や取材ができる。  
外観や取材対象者のインタビュー等、構成を考えながら撮影できるようになった。
- VTR構成で必要なことがらを主体的に考え、取材対象者にインタビューできる。  
あらかじめ考えた質問項目だけでなく、取材対象者が答えたことについて、さらに深く質問するなど、「質問力」が向上した。
- 取材対象者となる地域の人に主体的に関わる力がついた。  
当初は、教員が主導する場面が多かったが、徐々に生徒が地域の人に質問したり取材したりするようになってきている。

ふりかえりシートでは、各々の役割の把握や評価点、課題と解決策などを毎回箇条書きで整理する。ここでは記述した回答数の合計を第2回放映開始後(11月)と第6回放映開始後(3月)で比較した。(表2)

表2 設問ごとの生徒の回答数

設問	11月	3月	記述内容(3月回答、一部)
番組全体の評価	17	8	スタジオでのフリップ提示は良いアイデア。 硝子罐の映像がきれい。(パンを有効に使っている)
番組全体の課題	28	36	取材時の周りの音に気を遣いたい。 インタビューが長い。間延びする。
地域の課題	1	3	観光客を呼び寄せる魅力的なイベントがない。 高校生がイベントや店に足を運べていない。
次への改善策	22	34	締め切りを意識した行動。表で情報共有。 番組にあった題材をどう見つけるか。

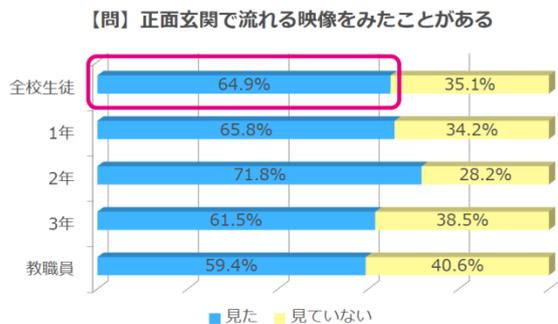
生徒の自己評価は厳しいものであるが、それ以上に、今後解決すべき課題を多くあげることができている。その内容は、より具体的になっている。

また、本実践の目的の一つでもある、地域の課題に気づくことは、一部の生徒ができつつある。具体的に解決の方策を考えるには、引き続き地域とのかかわりを深めていくことが必要である。

一方、番組を視聴する側からは評価が高い。校内での認知度は約 65%である。全校生徒 (630 人) を対象に、2018 年 11 月(第 2 回放映開始後)と 2019 年 1 月(第 4 回放映開始後)に調査を行った。生徒対象の調査では、校外での視聴はまだ多くなく、校外でのディスプレイ設置場所は、生徒にとって普段立ち寄る機会の少ない場所であることが原因と考えられる。図 6 は、2018 年 11 月に実施した認知度調査の結果である。

認知度調査

**65%の生徒が大型ディスプレイを認知していた**



認知度調査

**約4割の生徒が「なばテレ！」を視聴している**

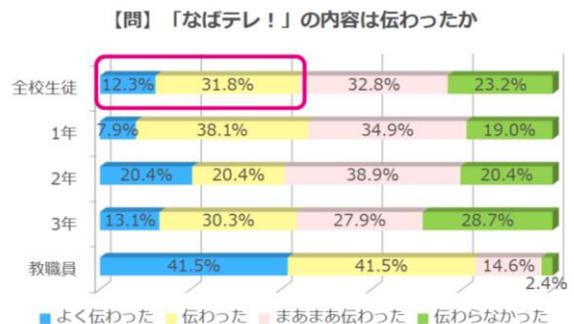


図 6 校内での認知度調査

2018 年 11 月の調査では、本校と名張市役所に設置したディスプレイ前に、番組で取り上げた 4 つの題材のどれを見たか、視聴者にシールを貼っていただく方法で視聴動向を調べた。調査期間は 1 週間である。シールの貼付状況から推測し、名張市役所での 1 週間での認知数は約 330 人と推定した。名張市役所では、来庁者の動線上にディスプレイを設置しており、興味を持つ題材が放映されているときに足を止めて視聴していただいているものとする。

認知度調査

調査期間：2018年11月28日～12月4日(第2回公開後)

調査場所：名張高等学校・名張市役所



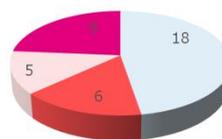
名張高等学校



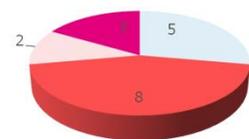
名張市役所

認知度調査

名張高等学校



名張市役所



- ①吹奏楽部定期演奏会
- ②観光客調査
- ③隠街道市
- ④こども仕舞教室

- ①吹奏楽部定期演奏会
- ②観光客調査
- ③隠街道市
- ④こども仕舞教室

図 7 校内での認知度調査

## 6. 今後の課題・展望

本実践を始めるにあたって、生徒に育みたい力として、①情報活用能力、②地域活性化に関わる力、③課題発見能力の3つをあげ、取り組みを継続してきた。地域の課題に気づき、改善策を提案するには至らなかった。引き続きより多くの地域の方と関わっていくことが必要である。

2022年度からはじまる新学習指導要領では、地域とのかかわりあい重要視されている。本実践では、それを先取って行い、他校での実践のモデルとなることをめざした。本校では、授業と部活動の連携を土台に行った。それぞれ単独では成果は上げにくい。しかし、それを軌道に乗せることができると、地域連携はもとより、官学連携、高大連携、産学連携など地域以外とのかかわりあいを作る土壌にもなり、広がりが期待できる。一方で、権利処理の課題や番組制作に関わる時間の確保の問題など、本実践を進めていくうえでさまざまな課題が出てきており、持続可能な仕組みづくりにはなお時間がかかる。

## 7. おわりに

高等学校でのこうした取り組みは、単発物の番組を制作するにとどまることが多い。その中で、定期的に地域の情報を発信し続ける本校の取り組みは、いかに早い段階で地域に浸透させていくかが重要である。その意味では、市役所との連携で放映用ディスプレイを設置したことは反響が大きく、放映開始後、制作する生徒に多くの市民のみなさんからお声がけをいただいている。また、地元の話題を若い世代が発信していることに共感していただいたケーブルテレビ局での放送が決定した。

取り組みは、2019年度も継続して制作する計画である。月1回を原則に、定期的に地域の話題を発信し続けることで、より多くの方に身近な存在であることを認知し視聴いただきたいと考えている。そのためには、高校生の視点を大切にしながら、市民センターを中心とした地域の輪の中にある、コアな話題にも関わっていききたい。